

資産運用はどこから始まるか？

MUFGシニアライフ研究所 主任研究員 くろかわ 黒川 ひろあき 弘明



資産運用という言葉を目にしない日はありません。新しいNISAの話題や投資信託の解説が新聞やネットに並ぶたび、「長期・分散・積立」が重要だと繰り返されます。理屈は理解できますし、その通りだと思います。それでもどこか、自分のこととしては捉えきれない。そう感じている人は案外多いのではないのでしょうか。

実のところ、筆者もその一人でした。仕事に追われ、日々のことを優先しているうちに、資産運用は後回しになります。金融の知識がまったくないわけではありません。それでも現実感が伴わないまま時間だけが過ぎていきました。

そんな折、以前から気になっていたこともあり、一度自分の資産と負債を整理してみることにしました。

やったことはごく単純です。預金はいくらあるのか、保険はどうなっているのか、住宅ローンの残高はどれくらい残っているのか。さらに将来受け取る年金の見込みと、毎月の生活費を書き出してみました。特別な分析をしたわけではありません。表計算ソフトに数字を並べただけです。



ところが、この作業は思いのほか示唆に富んでいました。資産が多いか少ないかという単純な評価よりも、別のことが気になり始めたからです。それは毎月の生活費です。人は日々お金を使いながら生きています。その支出は、株価や為替の動きとは関係なく、淡々と続いていきます。言い換えれば、生活費は時間の経過とともに積み重なっていくものです。市場が良くても悪くても、この流れは止まりません。

これまで筆者は、確定拠出年金の残高を見て「いくら増えたか、減ったか」という視点で資産を捉えていました。

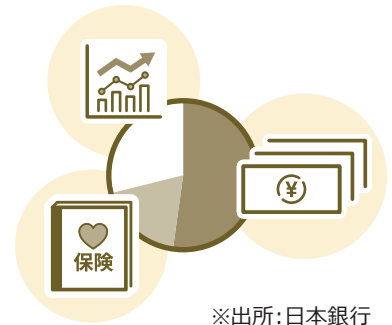
しかし、一覧表を前にすると少し違う感覚が生まれます。大切なのは「いくら持っているか」だけではありません。「この状態で、どれくらいの期間、落ち着いて暮らしていけるのか」という問いが、自然と立ち上がってきたのです。

次ページへつづく ▶

こうして浮かび上がってきた感覚は、決して特別なものではないのかもしれませんが。

日本銀行の資金循環統計によれば、家計金融資産のうち現金・預金は約半分を占め、その他は株式や投資信託などとなっています*。効率だけを基準にすれば、この割合は必ずしも合理的とは言えないのかもしれませんが。

それでも現金が持たれている背景には、別の理由があるように思えます。資産の姿は違っても、「どれくらい落ち着いて暮らしているか」という問いは、多くの人に共通しているのではないのでしょうか。



※出所:日本銀行
「資金循環統計」を基に作成

ここに、資産運用を考える出発点があるのだと思います。資産と住宅ローン等の負債、そして生活費を一度きちんと並べてみる。それだけで、「お金」と「時間」の関係が見えてきます。



例えば現金は、いざというときすぐに使える安心をもたらします。それは単に元本割れしないからではありません。慌てて資産を売らなくてもよい、判断を急がなくてもよい、そうした時間の余裕を生み出すからです。

近年、日本では長く続いたデフレ的な環境に変化の兆しが見られ、物価の動きを前提に時間を考える場面が増えてきました。

現預金は依然として家計の安定を支える重要な資産ですが、その一方で、現金を保有している時間そのものにも以前とは異なる意味が含まれ始めています。待つことが持っていた価値が、わずかに変わりつつあるとも言えるでしょう。



とはいえ、ここで直ちに投資を増やすべきだと結論づける必要はありません。まずは自分の状況を知ることが先です。

資産がどれだけあり、負債がどの程度あり、生活にはどれだけの費用がかかっているのか。その全体像を見ないまま、運用の効率だけを論じても、足元は定まりません。

資産運用というと、どうしても難しい話に聞こえます。しかし、その第一歩は思いのほか素朴な作業から始まるのかもしれませんが。筆者の場合でいえば、それは今の状況を一覧にまとめてみるということでした。

資産や負債は時間の中で増えたり減ったりします。一方で、生活費は時間の経過とともに積み重なっていきます。この不確実なものと確実なものをどう向き合わせるか——資産運用は、その問いにひとりひとりが向き合うことから始まるのかもしれませんが。

意見にあたる部分は著者の見解であり、MUFGシニアライフ研究所の見解を代表するものではありません。なるべくわかりやすくするために、大幅に省略・簡略化した表現としています。個別具体的なことについては、専門家に具体的にご相談ください。本資料の無断複製、複写、転送等にご遠慮ください。

◆MUFGシニアライフ研究所は、三菱UFJ信託銀行がシニアライフに関する調査・研究・レポート作成等の業務を対外的に行う際の呼称です。